

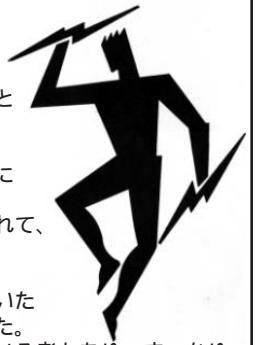


buy more
LIBERTY BONDS

SOLDIER

亡霊たち

町に、日本兵の亡霊があらわれた。
 ここにも、あそこにも。
 町の噂では、たしかに見たという人もいれば、何も見えなかったという人もあり、
 なんだかぼんやりと影みたいなものが見えると言うひともあったが、
 日が経つうちに、だんだん、誰の目にもはっきり見えるようになってきた。
 よく見ると、ひとりひとりの顔や体付きもまちまちだという事もわかってきた。
 彼らは、街角に数人が集まり何やら立ち話をして、一人また一人とどこかへ
 消えて行くが、集まってくる日本兵の数は、日に日に増えていった。
 彼らは、兵隊服と帽子を身に着け、三八式銃を肩にかけ背嚢を背負っている。
 みな、一様に痩せて服も兵隊靴もぼろぼろである。
 日本兵の亡霊たちが、この町でくやしきまぎれにまた戦争でも始めるつもりなの
 かと、町の人達は気味悪がって話していたが、そのうち、兵隊達が町のあちこち
 の家にあらわれるという妙な噂が聞かれるようになった。
 ある家では、夕食の食卓でいつのまにか一緒に食事をしていたとか、
 ある家では、真っ昼間、家人の留守中気持ちよさそうに昼寝をしていたとか、
 また、ある家では、勝手に庭いじりなどしていたという話も聞いた。
 どの家でも、とくに迷惑するというわけでもなく、家人達が驚いていると、
 しばらくして一礼して去って行くという話である。
 日当たりの良い居心地の良い家に訪ねて来るかと思えば、
 ずいぶんととっ散らかった足の踏み場もないような家や
 みなばらばらで家庭崩壊してしまったような、ちょっ
 と普通の神経じゃ長居は出来ないと言うような冷え冷えと
 した家でも平気でくつろいで行く。
 どうしてだか気に入ると毎日のように訪ねてくる。
 だんだん滞在時間も長くなり、まるで一家の住人のように
 振る舞う者もある。
 そうこうしている間に、いつ何時も町じゅうに、あらわれて、
 特に町に一件しかない本屋にはしょっちゅう来るらしい。
 ひどいときは5〜6人の日本兵が立ち読みしていたとか。
 最初のうちは、気味悪がったり商売の邪魔だとぼやいていた
 店主も案外いい宣伝になったのを見て気にとめなくなった。
 彼らは悶着を起こすことなく、家族のように親しまれている者もあり、すっかり
 町の生活に溶け込んで、まるでそれぞれが二度目の生を楽しんでいる様に見えた。
 そうして、一ヶ月あまり経った頃、彼らが町のはずれの中学校にがやがやと
 集まっているところを幾度か見かけられた。
 そして、あまり町や家をうろつかなくなっていった。
 ある日の夕暮れ、校庭で隊列を組んでいた彼らが、一人の号令で町の方角に向っ
 て敬礼をし、そして整然と消え去った。
 それからは、もう二度と再び誰も
 戻っては来なかった。



COLUMN

鎌倉の猫事情 その一

猫のシュガーちゃんが天国に召されてからもう、一年と一ヶ月が過ぎました。
 シュガーちゃんはミルクホールの一部となって、15年もの長い生涯を、皆に愛さ
 れ疎まれながら、その最後をまっとうしたミルクホールの伝説とも言える猫です
 シュガーちゃん亡き後、ミルクホールの時間はさほど変わりなく過ぎていく様
 に見えます。しかし、この界隈の猫事情はずいぶん変わりました。かつて猫たち
 の集会場だったこの先の路地のお家も、一人暮らしのおばあちゃんが京都の息子
 さんのお宅に引き取られたとかで無人になってしまい、そのせいどころかめっきり
 猫たちも見かけなくなりましたし、放浪癖のあるシュガーちゃんの家出先でもあ
 った無類の猫好きの和田さんのおじいさんの家も、ご夫婦が東京の息子さんの家
 へに引っ越されてすぐ取り壊されました。和田さんちは昔風の平屋で縁側も縁の
 下もあり、特に凝った手入れもしない庭もあり、猫の晩年にとっては実に過ごし
 安い家だったのだらうと思います。一時は、家出をしてご近所の飼猫になるな
 んて猫の風上にもおけない非礼な猫だと怒りも覚えました。今ではそれも理解
 できる気もします。何しろ今の街中ときたら、気持ちよくウンコできる土の地面もま
 まならないのです。
 猫好きのご老人が一人また一人と姿を消して行き、とともに高齢化した猫たちも
 さまざまな運命と寿命をまっとうし、寂しい路地になりつつあります。その猫
 たちの中でシュガーちゃんも一目を置いていたフルハウスの向いの白猫は、
 お汁の沁みのような薄い茶色のブチが尻尾とお腹のあたりにあり、右目の上には
 古傷を、連戦の爪跡と思われるカギザキを両耳に持ち、若い頃は実に堂々とし
 たボス猫として界隈の屋根に君臨していたのが、だんだん年をとり、屋根の上
 で寝ている姿がまるで薄汚れた使い古しのバスタオルを丸めて置いたように
 見えるようになっていたのを、皆で指差して笑っていたのですが、しばらくすると、
 その屋根の上から姿を消し、ついに死んでしまったのかと思っていたところ、その一年後には、飼
 い主宅のガレージで遊びまわっていた片隅に、ぼろ雑巾のような毛並みの
 変わり果てた姿となって毛繕いをしているのを目撃されています。違
 う猫かとも思ったのですが、耳のカギザキと右目上の古傷によって同猫と判別
 できたのでした。足の力がなくなりとうとう屋根にも上れなくなっ
 っていたのでしょう。思えばお向いの白猫の衰退がこのあたりの
 猫事情を一変させたのです。

PUBLICITE



1936



internet

ミルクホールタイムスは、インターネットのホームページでも掲載しております。
 英語のページもありますので、一度ご覧下さい。
 また、お店へのご要望、タイムスへのご意見、ご感想、ご投稿などは是非お寄せ下さい。

phone & fax 0467-22-1179
<http://www.milkhall.co.jp/>

PUBLICITE



1936

to be continued